

令和 4 年度 第 1 回学校教育課程編成委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和 4 年 9 月 27 日（火） 14:00～18:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）
小泉 利幸（三進興産株式会社）
道狭 ひろ子（ひろこ整骨治療室 院長）
小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）
松井 薫（国際ライセンス「NESTA PFT」日本支部 協会設立参画理事 等）
学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
森下 友雄（学科長）
伊藤 恵里（副学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
鴨田 佳典（柔道整復学科教員）
事務局 吉田 智哉（事務部長代行）
小浜 悠樹 川上 英史 圓乗 佑太 伊藤 真紀 緒方 洋太郎 太田 悠香
兼子 啓太郎（議事録）

以上 19 名

【欠席】 委員 伊藤 述史（公益社団法人日本柔道整復師会会長）
佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）

【議題】 (1) 身に付けておくべきコンピテンシー

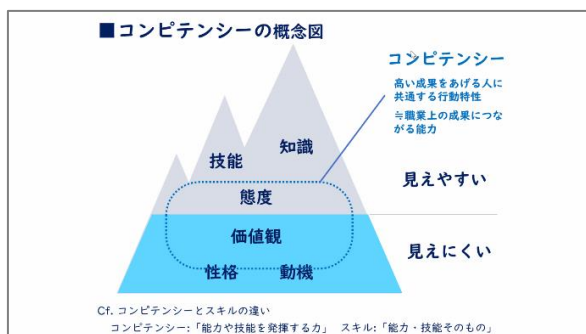
1. コンピテンシーとは
2. 校内での実践例：ルーブリック評価
3. 柔道整復師として働いていくうえで身に付けておくべきこと

(1) 身に付けておくべきコンピテンシー

1. コンピテンシーとは

身に付けておくべきコンピテンシーを議論するにあたり、本校担当者よりコンピテンシーに関する以下の説明を行い、今回の委員会内でのコンピテンシーの定義付けを行った。

- ・コンピテンシー = 高い成果を上げる人に共有する行動特性
 ≡ 職業上の成果につながる能力
- ・コンピテンシーディクショナリー（6領域・20項目）の紹介



2. 校内での実践例：ループリック評価

コンピテンシーを教育に取り入れて評価することの校内での実践例として、以下2点の報告を行った。

① 鍼灸学科の臨床実習で行っている「ループリック評価」

見えにくい能力を可視化する **ループリック評価表** (学習到達度表)

例) コミュニケーション能力を評価する

		尺度			
		優 (3点)	良 (2点)	可 (1点)	不可 (0点)
観点	対応力	自ら指示を仰ぐことができ、指示に対し適切に対処できる。	指示に対し適切に対処できる。	指示があれば実行できる。	指示があっても実行できない。
	報告連絡相談	報告・連絡・相談ができる。	報告・連絡・相談のうち2つができた。	報告・連絡・相談のうち1つができた。	報告・連絡・相談のいずれもできなかった。
	協調性	他人の意見を真摯に受け止め協働して業務を実行できる。	他人の意見を真摯に受け止めることができる。	他人の意見を聞き取ることができる。	他人の意見を聞き取ることができない。

② 柔道整復学科の臨床実習における16の評価項目

臨床実習評価			
大項目	小項目	大項目	小項目
態度	①身だしなみ(服装)	コンプライアンス	①守秘義務 個人情報
	②身だしなみ(容姿)		②清潔保持
	③挨拶 言葉遣い	付帯業務	③衛生管理
	④健康管理		④物理療法
	⑤時間 約束事	施術観察	⑤患者対応
	⑥主体性		⑥施術録
	⑦患者		
コミュニケーション	⑧指導対応		
	⑨協調性 行動力		
	⑩報告 連絡 相談		

3. 柔道整復師として働いていくうえで身に付けておくべきこと

柔道整復師として働いていくうえで身に付けておくべきことについて、意見交換を行った。委員からの意見は以下の通り。

・先を見通す力

時代は刻々と変化していくので、患者のニーズに合ったものが提供できるように先を見通す力を身に付けておくべき。

・治療を楽しいと思えるか

治療に対する興味が学生によって温度差があるように感じる。

具体的に「こんな治療家になりたい」、「こんなことができるようになりたい」というのを明確に持ってほしい。

↓

具体的な実践案として、

臨床実習における評価項目のうち「施術観察」、「コミュニケーション」については、治療が楽しめているかという観点も評価項目やプログラムとして追加していくと良いと思う。

・自己功力感（セルフ・エフィカシー）

どういう風に仕事を楽しめるか

将来的に技術を高めるために楽しく仕事をしていけるか

・態度としては「安心感」を伝える

実際の現場では、不安をあおらないように安心感を与えることが大切。

相手に応じたコミュニケーションが大切。

Ex) 年齢が高い方へは、はきはきした声よりも、穏やかに伝えることで安心感を与える。

・ビジュアルとしては「体格」も説得力の一つ

トレーニングを教える人が、自分の体を作れないのに人の体は作れない。

・答えを聞き出す力

困っていることに患者本人が気付いていないことも割とある。

根本にはこういうことがある、ということをお互いが理解し合って、そこから治療が始まる。

・相性が良いと思ってもらえるように持つていく

その方の目的や要望（静的姿勢の評価／動的姿勢の評価）だけでなく趣味・嗜好も聞いて、同調をするようにしている。

信頼してもらえることで、トレーニング・指導も伝わりやすくなるため、

相性が合うように持っていく（相性が合うと思ってもらえるように）ことを心がけることも大切。

- 良い見本（ハイパフォーマー）の先生が学校・実習先近くにいる
先生方それぞれを臨床実習における評価項目に当てはめて見てみると、具体的な見本として理解・目標につながるのではないかな。
- 仕事に対する姿勢
 - ①チャレンジ・チェンジ（問題意識を持って前例にとらわれず積極的に挑戦する姿勢）
 - ②顧客起点（顧客のニーズに応えるために業務を行おうとする姿勢）
 - ③あきらめない姿勢（執念を持って諦めずに取り組む姿勢）
 - ④チームワーク（進んでメンバーに協力し、支援を行おうとする姿勢）
 - ⑤法令（ルールを守る）

令和 4 年度 第 1 回教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和 4 年 9 月 29 日（木） 14:00～15:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
藤原 良次（本校校友会 会長、株式会社アールエフ 代表取締役社長）
鈴木 幸次郎（株式会社天心堂鍼灸院 院長）
松田 博公（元東洋鍼灸専門学校 副校長）
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）
小林 潤一郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
学校 岸本 光正（副校長）
天野 陽介（学生委員会・鍼灸学科長）
青木 春美（プロフェッショナル育成マネージャー・鍼灸学科教員）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
渡邊 靖弘（鍼灸学科教員）
西野 祐介（鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科副学科長）
事務局 吉田 智哉（事務部長代行）
小浜 悠樹 川上英史 圓乗佑太 伊藤真紀 緒方 洋太郎 太田 悠香
兼子 啓太郎（議事録）

以上 23 名

【議題】 (1) 身に付けておくべきコンピテンシー

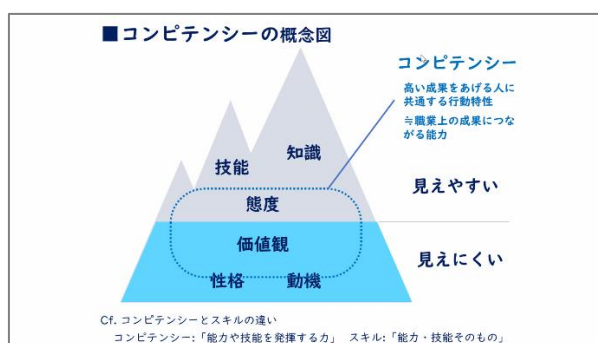
1. コンピテンシーとは
2. 校内での実践例：ルーブリック評価
3. 鍼灸師として働いていくうえで身に付けておくべきこと

(1) 身に付けておくべきコンピテンシー

1. コンピテンシーとは

身に付けておくべきコンピテンシーを議論するにあたり、本校担当者よりコンピテンシーに関する以下の説明を行い、今回の委員会内でのコンピテンシーの定義付けを行った。

- ・コンピテンシー = 高い成果を上げる人に共有する行動特性
 ≒ 職業上の成果につながる能力



2. 校内での実践例：ルーブリック評価

コンピテンシーを教育に取り入れて評価することの校内での実践例として、臨床実習で行っている「ルーブリック評価」について報告を行った。

見えにくい能力を可視化する ルーブリック評価表 (学習到達度表)

例) コミュニケーション能力を評価する

		尺度			
		優 (3点)	良 (2点)	可 (1点)	不可 (0点)
観点	対応力	自ら指示を仰ぐことができ、指示に対し適切に対処できる。	指示に対し適切に対処できる。	指示があれば実行できる。	指示があっても実行できない。
	報告連絡相談	報告・連絡・相談ができる。	報告・連絡・相談のうち2つができた。	報告・連絡・相談のうち1つができた。	報告・連絡・相談のいずれもできなかった。
	協調性	他人の意見を真摯に受け止め協調して業務を実行できる。	他人の意見を真摯に受け止めることができる。	他人の意見を聞き取ることができる。	他人の意見を聞き取ることができない。

見えにくい能力を可視化できる一方で、観点到無いものは評価されないため、観点の設定が重要である。

今回の委員会でもいただいた意見を参考に観点の設定を見直していく。

3. 鍼灸師として働いていくうえで身に付けておくべきこと

鍼灸師として働いていくうえで身に付けておくべきことについて、意見交換を行った。委員からの意見は以下の通り。

- ・根本には、職業人としての価値観がある。
患者の幸せ・健康に対する想いが、仕事へのやりがい・生きがいになる人材であってほしい。
- ・コミュニケーション能力（特に、文章・言葉・文字によって伝える力）
基本的な文章力、書類作成能力が重要。
例えば、同意を得た医師への施術報告書の作成など、協働する専門職との連携においては、相手の分かる言葉で伝えていくことで相互理解につなげることが必要。
- ・傾聴スキル
医療面接の場面で、患者の一番奥に潜んでいるものを引き出せる力。
授業の場面で実践するとすれば、【話す人、聞く人、それを調整する人】の三人一組でのロールプレイは客観視できて傾聴スキルが上がる。
傾聴のポイントは、
正面を向いて話を聞く（顔・目を見ながら）こと、相槌の打ち方、柔らかい表情などが挙げられる。
- ・持つておくことが望ましい資格、スキル
登録販売者、介護予防運動指導員の資格、
Word・Excel・PowerPoint等のビジネスソフト活用スキル
- ・自己を調えること
中医学の古典『黄帝内経』には、鍼灸師にとって最も大切なことは「治身」であるという記述がある。自分自身の身体をいかに養うかが重要である。
鍼灸師自身のところとからだが充実した状態であることが最も重要なこと。
- ・大東文化大学の林克教授の言葉
「手技的能力だけでなく、人格的能力を含め、ある個人が身に付けた能力の総称が徳であって、その徳が気に影響を与える」
治療がうまくなるためには、人格的能力にも目を向ける。
「徳を積む」ことを掘り下げることが「態度」に目を向けることに繋がるので、学生にも伝えていってほしい。

- ・ 自社で大切にしていること 5つ
 1. 段取り 8割
活躍している鍼灸師は「準備」を大切にしている
 2. 自己を調える
自分がどうありたいか、どうしたいかを考える
 3. 自己責任で考える
患者等の相手に原因を求めるのではなく、自分たちがどうするかという姿勢が学ぶことにも繋がる
 4. 一生に寄り添う覚悟
一生に寄り添う覚悟があるかないかで、対話が変わる
(短期的な施術をするのか、数年前から・数年先を考えるのか)
 5. 客観的評価 (数値・相手の声) で考え、改善する
正解が無数にある業界であるが故、客観的評価 (数値・相手の声) で考え改善することが重要。
- ・ 何かを続けられること (力になるし自信になる)
- ・ 自分への自信、ネガティブではなくポジティブ
鍼灸師としての誇りを持って行動する。
身近なロールモデルである教員の役割も重要。

令和 4 年度 第 2 回教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和 5 年 2 月 16 日（木） 14:00～15:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 鈴木 幸次郎（株式会社天心堂鍼灸院 院長）

松田 博公（元東洋鍼灸専門学校 副校長）

寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）

小林 潤一郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）

武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）

学校 奥田 久幸（校長）

岸本 光正（副校長）

天野 陽介（鍼灸学科 学科長）

中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

森下 友雄（柔道整復学科 学科長）

伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

事務局 吉田 智哉（事務部長代行）

小浜 悠樹 沢田 秀樹 川上 英史 伊藤 真紀 緒方 洋太郎 西山 花香

兼子 啓太郎（議事録）

以上 19 名

【欠席】 委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）

藤原 良次（本校校友会 会長、株式会社アールエフ 代表取締役社長）

【議題】

(1) 卒業生が就職した治療院へのアンケート取り組みと結果の共有

1. アンケートの概要
2. アンケート結果
3. 「柔軟に対応できる力」についての意見交換

(1) 卒業生が就職した治療院へのアンケート取り組みと結果の共有

1. アンケートの概要

本校学生の採用実績がある企業に対して以下の通りアンケートを実施した。

【目的】

企業側の重視する点や本校卒業生の能力の優劣を捉え、カリキュラムに反映させ、

活躍できる医療人を育成すること。

【アンケート調査を行った業態】

鍼灸接骨院 46 院、鍼灸専門院 4 院、個人接骨院 2 院、整形外科：2 院

【アンケート項目】

① 『入社 2～3 年目の人物像に対して、重視する項目について』

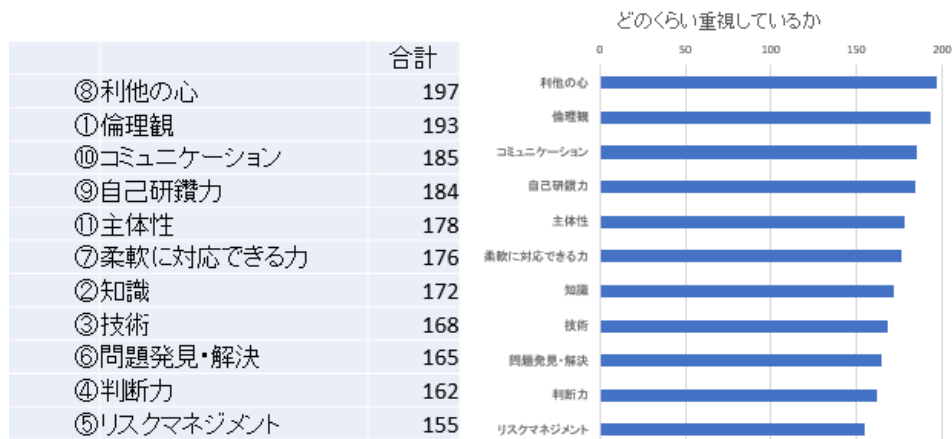
※項目は、本校のディプロマポリシーに沿った 11 個の項目で設定	
・医療人としての倫理観	・施術所で働く上での知識
・施術所で働く上での技術	・判断力
・リスクマネジメント能力	・問題発見・解決能力
・物事に対して柔軟に対応できる力	・利他の心
・自己研鑽力	・コミュニケーション能力
・主体性	

②本校卒業生は、上記 11 項目が身に付いているかどうか

③その他（教育・研修内容、学生時代に学んでおくこと、今後の採用意向等）

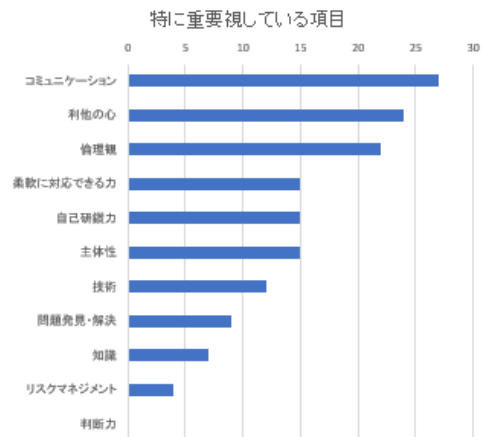
2. アンケート結果

①-1 『入社 2～3 年目の人物像に対して、重視する項目について』



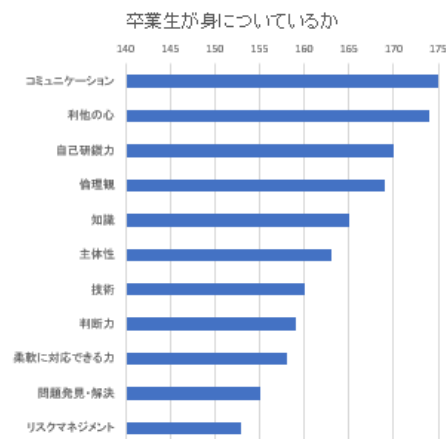
①-2 11 項目の中で、特に重要視している項目

	合計
⑩コミュニケーション	27
⑧利他の心	24
①倫理観	22
⑦柔軟に対応できる力	15
⑨自己研鑽力	15
⑪主体性	15
③技術	12
⑥問題発見・解決	9
②知識	7
⑤リスクマネジメント	4
④判断力	0



②本校卒業生は、上記 11 項目が身に付いているかどうか

	合計
⑩コミュニケーション	175
⑧利他の心	174
⑨自己研鑽力	170
①倫理観	169
②知識	165
⑪主体性	163
③技術	160
④判断力	159
⑦柔軟に対応できる力	158
⑥問題発見・解決	155
⑤リスクマネジメント	153



3. 「柔軟に対応できる力」についての意見交換

アンケートの結果から、企業側で重視されているが卒業生の身につけている項目としては数値が高くない「柔軟に対応できる力」について以下 2 点の意見交換を行った。

- ① 「柔軟に対応できる力」という言葉に対するイメージについて
- ② 「柔軟に対応できる力」を身に付けるために、どのような教育に取り組むべきか

【委員からの意見】

- ・柔軟に対応するためには傾聴力が重要
聴く耳を持つことで有効なアセスメントができる。
- ・細かな変化に気が付くことが柔軟な対応に繋がる

服装、手や足のあざなどの細かな変化に気が付くことで心身の状態の変化を捉えることにも繋がる。

- 相手に合わせた柔軟な説明対応
 - リハビリや治療の目的や、方法を相手が理解して前向きにとらえられるような説明を行うことも大切。
- DP と企業側が重視している項目及び卒業生の評価が一致しており評価できる学校が設定しているディプロマポリシーと企業側が重視している項目、及び卒業生に対する評価が合致しているということは的を射た教育・カリキュラムだと理解できる。
- 柔軟に対応できる力＝臨機応変に対応できる力
 - サービス産業・対人関係職種では大変重要視されている。
 - 臨機応変に対応する力は先天的要素が影響している。
 - 脳の中のドーパミンの受容体が少ない体質の場合、ルールを重んじ細部にこだわる傾向にある。
 - 教育にどのように活かすかを考える場合には、学生個々にどのような学生かを把握して、それを受容して育てていく必要がある。
 - 学生個人に応じた内面的なアプローチの教育が必要。
- 柔軟に対応できる力として何が重要か
 - 1) コミュニケーション能力：傾聴と知識を増やすことが重要
 - 2) 行動力：自学自習＝自分が疑問に思ったことは自分なりに調べて行動に移す
- 教職員がロールモデルになること
 - 人格というのは人から人に伝わるものである。
 - 教員一人ひとりが自覚して、日常の授業の中で学生へ人格のモデルを提示する。
- 即効性のあるカリキュラム改革の一つとして「強いところをさらに伸ばすこと」
 - 求められている能力のうち、身に付いていると評価されている能力として今回のアンケート結果からは「コミュニケーション能力」が挙げられる。
 - 他を圧倒するような特徴となれば強みを増すことになる。

令和 4 年度 第 2 回学校教育課程編成委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和 5 年 2 月 21 日（火） 14:00～16:10

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）
加瀬 剛 （キネシオ接骨院 院長）
小泉 利幸（三進興産株式会社）
道狭 ひろ子（ひろこ整骨治療室 院長）
小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）
松井 薫（国際ライセンス「NESTA PFT」日本支部 協会設立参画理事 等）
学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
鴨田 佳典（柔道整復学科教員）
事務局 吉田 智哉（事務部長代行）
小浜 悠樹 相馬 しのぶ 伊藤 真紀 川上 英史 緒方 洋太郎 西山 花香
兼子 啓太郎（議事録）

以上 21 名

【欠席】 委員 伊藤 述史（公益社団法人日本柔道整復師会会長）

【議題】

- (1) 卒業生が就職した治療院へのアンケート取り組みと結果の共有
 1. アンケートの概要
 2. アンケート結果
 3. 「柔軟に対応できる力」についての意見交換

(1) 卒業生が就職した治療院へのアンケート取り組みと結果の共有

1. アンケートの概要

本校学生の採用実績がある企業に対して以下の通りアンケートを実施した。

【目的】

企業側の重視する点や本校卒業生の能力の優劣を捉え、カリキュラムに反映させ、活躍できる医療人を育成すること。

【アンケート調査を行った業態】

鍼灸接骨院 46 院、鍼灸専門院 4 院、個人接骨院 2 院、整形外科：2 院

【アンケート項目】

① 『入社 2～3 年目の人物像に対して、重視する項目について』

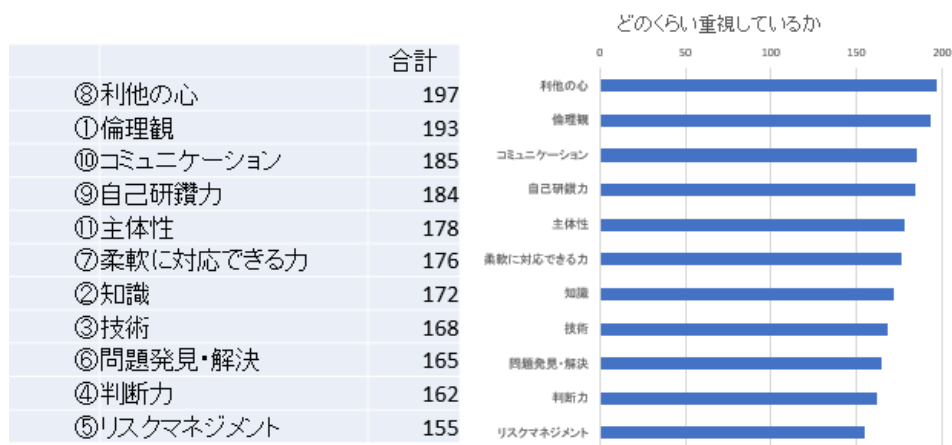
※項目は、本校のディプロマポリシーに沿った 11 個の項目で設定	
・医療人としての倫理観	・施術所で働く上での知識
・施術所で働く上での技術	・判断力
・リスクマネジメント能力	・問題発見・解決能力
・物事に対して柔軟に対応できる力	・利他の心
・自己研鑽力	・コミュニケーション能力
・主体性	

②本校卒業生は、上記 11 項目が身に付いているかどうか

③その他（教育・研修内容、学生時代に学んでおくこと、今後の採用意向等）

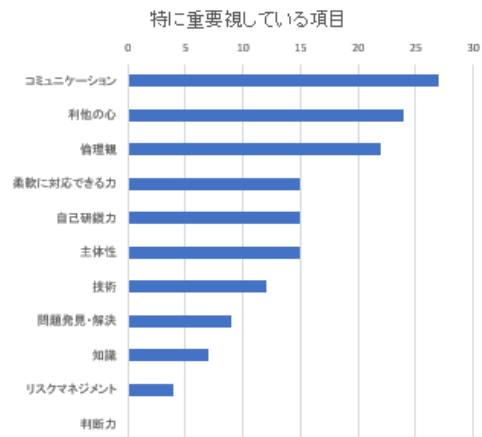
2. アンケート結果

①-1 『入社 2～3 年目の人物像に対して、重視する項目について』



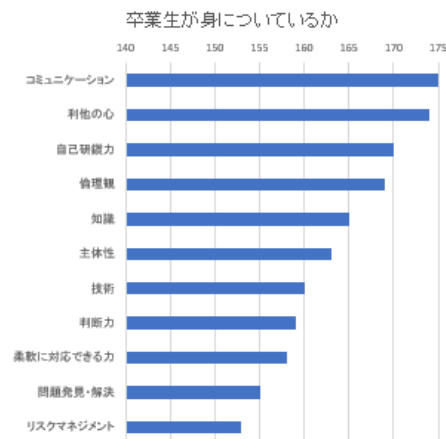
①-2 11 項目の中で、特に重要視している項目

	合計
⑩コミュニケーション	27
⑧利他の心	24
①倫理観	22
⑦柔軟に対応できる力	15
⑨自己研鑽力	15
⑪主体性	15
③技術	12
⑥問題発見・解決	9
②知識	7
⑤リスクマネジメント	4
④判断力	0



②本校卒業生は、上記 11 項目が身に付いているかどうか

	合計
⑩コミュニケーション	175
⑧利他の心	174
⑨自己研鑽力	170
①倫理観	169
②知識	165
⑪主体性	163
③技術	160
④判断力	159
⑦柔軟に対応できる力	158
⑥問題発見・解決	155
⑤リスクマネジメント	153



3. 「柔軟に対応できる力」についての意見交換

アンケートの結果から、企業側で重視されているが卒業生の身につけている項目としては数値が低い「柔軟に対応できる力」について以下 2 点の意見交換を行った。

- ① 「柔軟に対応できる力」という言葉に対するイメージについて
- ② 「柔軟に対応できる力」を身に付けるために、どのような教育に取り組むべきか

【委員からの意見】

・「話題力」

トレーニングに関する知識はあるが、お客さんとの会話の中での話題作り、エピソードを展開する力をつけることが、様々な場面での柔軟な対応に繋がる。社会情勢・情報を入手することも大切。
専門知識・技術だけでなく授業冒頭で社会情勢に触れる等の工夫をすることも必要なのではないか。

- 問題解決系の授業プログラム
柔軟に対応できる力を身に付けるために、
具体的な課題を与えるグループディスカッション、症例を与えてロールプレイ
を実施するのが有効だと思う。
- 患者さんの状態の見極め
施術を行う際の患者さんの体勢も個々の患者さんの状況に応じて変える必要が
ある。(自分がやりやすい体勢ではなく、患者さんの状況に応じた対応をする)
- 治療を料理に例えて考えてみる
料理のように出来上がりをイメージして、かけられる時間や要素から治療の
組み立てを行っていく。
3年間の間で自分が使える道具・技を身に付けて、持ち札を増やすことでそれを
組み合わせることで完成されていく。
- 時間の使い方
明確に所要時間を伝えて実技を行うことで、逆算してこの時に何を用意して何
を行えばよいのかを考えて行動できるようになっていく。
- 仕組み化することで柔軟に対応できるようになる
1人ひとり考え方や捉え方が違うから「柔軟に対応する」ことを
求めすぎないようにしている。
すべてのケースを想定して対応をマニュアル化している。
対応できないことが生じたときには付け足していく。
- 答えではなく最適解を見つけるマインドセットをする
自社では施術や日々の事例を従業員に毎日共有するようにしている。
事例の共有「こんなことがあった」によって学生の引き出しを増やし、
結果的に柔軟性に繋がるのではないかな。
- 見本を見せること、考え方を伝えること
学生から社会人になったときに知識で解決しようとしがち。
知識と現場がリンクしないことがある、
経験的に体得していることを言語化して伝えることが大切。
- 凝り固まらず、教えられたことや素直に吸収できる気持ちを持つことが大切。